

令和7年度

鴨島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分なりの考えをもち、表現することができる児童を育成する授業の実践
- 学び合う学習(主にペア学習・グループ学習)を一層取り入れた授業の実践
- タブレット端末等を生かした「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践

校長

阿部 敏和

学力向上推進員

数尾 大樹

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

教員の取組の振り返りや学校評価(教員・児童・保護者)、研究授業、管理職の授業参観等により取組状況を把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に課題に取り組む児童が増え、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いてきている。 ●学習内容を既習事項と関連付けて課題を解決していく力が十分に身に付いていない児童がいる。	・教科の本質を踏まえ授業のめあてを自分なりに理解し、身に付けた知識・技能を適切に働かせることができる。 ・既習事項や振り返り学習を活用して、新たな課題をスムーズに解決していくことができる。	・基礎基本の確実な定着を図るために、タブレットでのドリル学習を積極的に活用する。 ・「家庭学習の手引き」や「学習スタンダード」を見直し、教員全員で共通理解をして取り組んでいく。 ・新たな学習課題を解決していくための手立てとして、児童のノートの振り返りや既習事項と関連付けて、課題解決へ向かう授業の仕掛けを行う。	・家庭学習の時間や内容を再検討し、基礎・基本の反復と復習を中心とした取組を進めていく。 ・タブレットドリルの有効活用を図り、児童の習熟度に応じた活用を図っていく。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の発表をよく聞いたり、自分の考えや意見を書いたりできる児童が増えている。 ●目的や意図に応じて友達の発表を聞いたり、自分の考えを明確にして伝えたりすることに課題がある。	・聞き方「あいうえお」が身に付いている。 ・自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聞くことができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら相手に分かるように表現することができる。	・考えや思いを発表するにあたり、話し方や聞き方のポイントを明確に示す。(掲示物やカードの作成) ・学び合うための話し方を定着させるため、ペア学習やグループ学習といった対話的で協働的な学習場면을積極的に取り入れる。 ・タブレット等ICT機器を効果的に活用する。	・各教科で理由付けや根拠をもって説明する活動を定期的に設定する。 ・グループ・ペア学習を通して、考えを交流・再構成する場面を設け、深い学びの実現を図る。 ・タブレットの活用場面を明確にし、教師間での共有を図りながら効果的な活用を進める。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題や家庭学習にまじめに取り組む児童が増えている。 ●難しい課題や時間のかかる課題に、最後まで粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。また、積極的に発表したり意見を交流したりすることに課題がある。	・学習に向かう環境を自主的に整えることができる。 ・学習課題や自主学習に進んで取り組むことができる。 ・自己の学びを振り返り、次の学びに向かう意欲をもつ。	・鴨島小学校「学習スタンダード」の繰り返しの指導を行う。 ・タブレット等ICT機器を効果的に活用し、話し合い活動や調べ学習に対して主体的に取り組めるようにする。 ・目標達成のためにPBSと関連付け、児童の主体性を引き出す。	・学習のめあてを明確にすると共に、自分の学びを振り返り、次時への見通しをもてるようにする。 ・学習規律と集中力の向上を図るため、鴨島小学校「学習スタンダード」のさらなる活用と徹底を図る。		